

平成 28 年度 第 2 回 大阪府立中央聴覚支援学校 学校協議会議事録 概要

日時：平成 28 年 10 月 27 日（木） 15:15～17:00

場所：高等部 4 階会議室

1 事務局より開会にあたっての説明

2 学校長挨拶

3 各部の様子について

(幼稚部)

運動会の様子について。パラバルーンについて幼児全員での取り組み。かけっこでは 3 歳児も直線を走った。親子競技も協力していただいた。幼小合同リレーでは、5 歳児が参加。

(小学部)

水泳大会は児童全員参加。団体演技は 6 年生が先頭に立ち、「よさこいソーラン」をした。旗はたてわりの必要な児童のグループで作った。団体競技では上級生が下級生を助け、下級生は上級生にあこがれをもつ機会になっている。社会見学ではキャリア教育の一環として、いろいろな仕事に触れ、それぞれに役割があって、働く人々の様子を学んだ。

三校交流会や修学旅行で行った平和学習、千羽鶴を折った様子などを紹介した。

(中学部)

1 年生の一泊移住や 2 年生の健聴の中学校での体験学習を実施した。夏休み中は大きな事故もなかった。2 学期の初めは水泳の評価もあり、時間が足りない中、生徒も頑張った。運動会では校歌の担当の生徒は、みんなの前に立つ経験ができた。徒競走、ダンス、応援合戦、長拳、クラブ紹介などの様子を紹介した。岩手県で行われた国体に中学部から 3 名選ばれ、好成績を収めたことも披露。

(高等部)

運動会では、高等部の出番は少ないが、ダンスに力を入れている。単一生、重複生に分かれて行った。単一生のダンスは部分的に生徒が考え、一日の様子を表現している。自分たちで考えた動きである。校長先生、教頭先生にも参加していただいた。重複生のダンスは生徒の案をすべて組み合わせで構成した。中学部の生徒も合同で。中高の合同体育があるのでこのような取り組みができる。他の行事について

は次回の学校協議会で紹介する。

(寄宿舎)

年度当初にサークルを生徒から募集し、今年度は「たつのこ、わくわく、ダンス」の3つ。たつのこサークルでは太鼓の前後が入れ替わる動きなど、アイコンタクトで動きを合わせている。10月16日に中央区区民祭りに参加。今年で4年目になる。この取り組みを全国の研究会で報告し、知ってもらう機会をもてた。

12月26日、大阪府教育センターフォーラムのランチタイムコンサートに当選し、発表できる場をいただいた。聴こえないからこそ、音楽を身近なものとして楽しんでいる。近畿一円の発表会でも寄宿舎の取り組みを発表する予定。

4 平成28年度 学校経営計画 中間評価について

学校長より説明

(人権を尊重した安全で安心な学校づくりの推進について)

- ・ 防災対策について、先日、大きな地震があり、実際いつどこで起こるかわからない。対応するためには覚悟と準備が必要。熊本県立聾学校の校長先生から「地震を経験して今起こったとき、どうすべきかを考えることができるようになった」という話を聞いている。
- ・ 東京の金竜小学校では東日本大震災をうけて安全教育に取り組み、I S S 認証をめざしている。また京都の小学校を教頭、小学部主事に視察してもらったが、本校での現状の取り組みは形骸化しており、一から考え直す必要がある。
- ・ 通学時の安全指導については、8:30 からが勤務時間だが、8:15 から交差点での立ち番を実施している。19日には交通安全講習会としてスタントマンによる実演を見た。
- ・ 問題行動について、手話ができる臨床心理士を招聘し、カウンセリングを実施している。まだ時間が限られているので、拡充を求めている。

(個の教育的ニーズに応じた専門的な指導の実施について)

- ・ 個に応じた指導については、個々のニーズをまず把握すること。検査等しっかり研修して個別の指導計画に反映していく。
- ・ 個別の支援計画等については、作ることに一生懸命だが、作った後の実行に意識をむけていく意識改革をしていきたい。引き継ぎについても保護者への聞き方もある。違う学校が4つあるような形にはしたくない。
- ・ 研究授業に関しては、自分の授業を振り返ること、批評するならまず自分の授業を振り返ること。

(障がいに対する認識を深め、社会参加・貢献に必要な知識と技能の習熟を図り、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等の育成について)

- ・ 自立活動プログラムについて、手話の中では敬語が示しにくい。社会に出たら敬語が必要になる。高等部の進路だけでなく、幼稚部から発達段階に応じて取り組んでいる。
- ・ 芸術鑑賞会で影絵の公演を鑑賞した。特に幼、小の子どもは喜んでいて。豊かな感性を醸成していく取り組みは、何らかの形でやっていきたい。
- ・ 発達段階に応じたキャリア教育について、例えば相生中との交流では、手話のない世界を体験した。まったくわからなかったという感想もあったが、こういう経験も必要だと考えている。
- ・ 何名か大学合格が出てきている。就職もおおむね決まってきている。特進コースについては結果が出てきている。
- ・ 各種検定の合格者には、朝礼で表彰披露を行っている。
- ・ 部活動については近畿地区聾学校卓球大会で女子生徒が3冠を達成した。

(聴覚障がい教育における歴史および今日的課題についての研究に取り組み、専門性の向上を図ることについて)

- ・ 手話のできる先生は必須だが、努力できるシステムを作っておくことが必要。手話を学ぶ機会を設けている。石川県立聾学校PTAが本校を見学し、手話のできる先生が多いことに驚いていた。全国的にはまだまだで、それに安心することなく取り組んでいく。
- ・ 歴史的な資料については、残っている資料をきちんと保存している。

(聴覚障がい教育のセンター的機能の充実について)

- ・ 0歳児から2歳児については大きくオール大阪でやっていかなければならない。地域の小学校への支援をしているが、本校の良さがわかれば本校に来てくれる。PRを積極的にできる場でもある。
- ・ 運動会にも地域の学校に通う子どもたちも参加している。つながっていける一助になれば。
- ・ 他校園とのかかわりについてはコミュニケーション力、コーディネート力が必要。5～10年必要だと考えているが、転勤の制度もあるので、そのあたりも考えながら後進を育てていく。

<委員からの意見・質問>

- ・ 鳥取地震のとき、現地ではヘルメットを用意していてもいざというときにかぶれなかったことがあった。学校ではどんな様子であったのか。

→ 教頭がすぐに放送にて指示。様子を見ながら授業を進め、テレビで情報確認を行った。校舎の亀裂、破損はなかった。

現在では形だけしか訓練できていない現状がある。「訓練の訓練」になってしまっている。形骸化した訓練を行う必要はなく、他校では通れない通路を設定したり、抜き打ちで行う例もある。起こりうるシチュエーションを想定した訓練が必要である。

・ 関東ではそれぞれの校区にある健聴の学校に籍を置く、複籍の取り組みがある。大阪ではどうなのか。

→ 大阪では複籍はない。

・ 中学部と相生中との交流がよかった。ぜひ続けてほしい。

・ 指定校推薦はあったのか。

→ 指定校推薦はあったが、受験希望者がいなかった。

・ 自己評価として、ほぼ予定通り進んでいるという評価だった。継続して取り組みの達成を期待している。

5 教科用図書採択結果について（報告）

6 事務局より事務連絡

・ 第3回 学校協議会の案内

7 閉会